

氏名	岡 本 敏 男
学 位 の 種 類	医 学 博 士
学 位 授 与 番 号	乙 第 179 号
学 位 授 与 の 日 付	昭和41年 9 月30日
学 位 授 与 の 要 件	博士の学位論文提出者 (学位規則第5条第2項該当)
学 位 論 文 題 目	高血圧管理について 第1報 高血圧検診結果の検討一特に境界高血圧群の意義 第2報 境界域高血圧者に対する予防的薬剤投与 第3報 血圧精円を中心とした高血管理対策の検討
論 文 審 査 委 員	教授 大平 昌彦 教授 小坂 淳夫 教授 緒方 正名

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

戦後わが国における臨床治療医学と、公衆衛生活動の長足な進歩は、わが国の疾病罹患の状況を著しく変貌せしめ、従来、わが国公衆衛生活動における主要な目標であった結核死亡の著明な減少は、成人病と称される高血圧、脳卒中等循環器系疾患、消化器系悪性新生物、糖尿病等の慢性諸疾患へとその活動の目標を移し、広く注目されてきた。特に産業現場にあっては、その対象とするのが一定の組織化された集団たる従業員であるため、これら諸疾患に対する有効な管理体系を企業内衛生担当者に要求する声は極めて大きい。著者は、某重工業事業所において、産業現場における血圧集団検診とその後の管理方策と体系を確立する目的で研究を行った。

まづ第1報においては、血圧集団検診で一時点における血圧値とその精密検査結果との関連を調査することによって、産業現場においてより有効な高血圧対策を推進する対象群を明らかにしようとした。過去の血圧経歴を考慮して対象者を抽出した場合、境界域高血圧者にもかなり諸検査に異常のある者がみられ、今後これら境界域高血圧者にも高血圧管理の対象として重視すべき必要のあることを認めた。

第2報では、これら境界域高血圧者の管理対策として、予防剤を投与することにより降圧効果を認め、検診率を向上し、受診者の健康管理に対する関心をたかめ得た。産業現場における血圧集団管理の有効な一手段と考えられた。集団検診の活動評価として、集団検診結果の有効な事後管理への導入

が、今日重要な課題となっているが、第3報では血圧楕円を利用することにより、集団管理のための指標化を試みた。血圧楕円は従来、非常に複雑な計算を要するが、著者は電子計算機を利用することを考案し、これにより計算を簡便化し、かつ同時に多数の血圧値を処理することが出来、集団検診結果の集団処理方策上有効に利用しうることを認めた。

第1報 産業医学第8巻第9号（昭和41年9月）掲載予定

第2報 産業医学第8巻第9号（昭和41年9月）掲載予定

第3報 老年病第8巻第6号（昭和39年6月）掲載

論文審査の結果の要旨

岡本敏男提出の「高血圧管理について」に関する学位論文につき審査した結果の要旨は次の通りである。

第1報 血圧集団検診で一時点における血圧値とその後の精密検査結果との関連を調査し、産業現場において、より有効な高血圧対策を推進する対象群を明らかにするため過去の血圧経歴を考慮した対象者群として、境界域高血圧者群を抽出したが、これら対象群にもかなり諸検査に異常のある事が認められ、今後これら境界域高血圧者群にこそ高血圧管理の必要があることを示した。

第2報 これら境界域高血圧者群の管理対策として、予防剤を投与することにより降圧効果を認め、検診率の向上と、受診者の健康管理への関心をたかめることを示した。

第3報 血圧楕円を利用することにより、集団管理の指標化を試みた。血圧楕円は従来非常に複雑な計算を要するが電子計算機の利用を考え、同時に多数の血圧値を極めて能率的に処理することが出来、検診結果の集団処理方策に新機軸をうち出したものといえる。

以上の通り本論文は新しい知見に富み、学術上有益であり、著者は医学博士の学位を授与せられるべき学力を有すると認める。